

大宰府条坊内の客館（8～9世紀）

太宰府市教育委員会

1. はじめに

西鉄操車場跡地（太宰府市朱雀2・3丁目）は、大宰府政庁跡から約1km南にあり、政庁からのびる古代のメインストリート朱雀大路のすぐ東側に広がる土地です。

太宰府市では、平成8年度の跡地北辺の市道拡幅、平成16年度の県道新設、また平成17年度からは西鉄の開発計画に先立って、埋蔵文化財発掘調査を行ってきました。

ここから古代大宰府についての多くの情報が得られています。不明な点が多かった古代都市「大宰府条坊」の区画が検出されるとともに、奈良時代の「大型建物群」、新羅製金属食器の「佐波理」出土、労役の帳簿の「木簡」、平安時代の太宰府の官長の腰帯「白玉帯」の玉製品など、これまでマスコミ・現地説明会・市の広報を通じて公表してきました。

これらを通してわかってきたのは、奈良時代、ここがかなり特殊な場所ということです。政庁の建物に匹敵する大型建物、通常の役所や住居では考えられない希少品の数々。

ここが何だったのか。見つかったものを総合して考え、大宰府と深く関わりのある古代の都との比較、東北多賀城城下の検出遺構との比較などをおして、外国使節を安置した「客館※1」の可能性が浮上しました。

2. 遺跡の評価

(1) 大宰府の役割

古来より、大陸から伝わった人・モノ・文化は、日本の形成に大きな影響を与えるとともに、日本の文化・歴史の中に定着しています。大陸・朝鮮半島に近い北部九州は、その玄関口としての役割を担っていましたが、古代においては「大宰府」がその窓口でした。

7世紀末以降、大宰府は、中央朝廷の縮小版のような役所でした。西海道諸国※2を管轄し、朝廷に似た組織と税収システムを持っていました。日本の軍事・外交面も担っており、その長官には、皇族、あるいは朝廷の八省※3の長官より上位の貴族（公卿）が任命されました。

この大宰府の最大の特徴といえば、以下の対外的な機能をもっていたことです。

- ・蕃客（外国使節の管理・監督）
- ・帰化（帰化志願者の管理・監督）
- ・饗謙（外交使節のもてなし、迎賓）

とくに「饗謙」は、朝廷と大宰府だけが持つ機能です。朝廷に不都合があつて外国使節を入京させない（させられない）場合、朝廷から使者が来て大宰府で外国使節を迎え、儀礼・饗宴を行いました。つまり、都に上らない外国使節は、大宰府（大宰府の長官）や朝廷の使者、大宰府の街の姿、そこでの接遇を通して日本をイメージし、帰国することになります。これはたいへん重大な役割といえます。

※1 福岡市の鴻臚館跡もその一つ。なお「鴻臚館」は平安時代に使われた用語。

※2 西海道諸国：筑前、筑後、肥前、肥後、豊前、豊後、日向、薩摩、大隅の9国と、壱岐、対馬など。

※3 八省：中務省、式部省、治部省、民部省、兵部省、刑部省、大蔵省、宮内省。



引用：(独) 奈良文化財研究所『なら平城京展'98 図録』を一部改変

(2) 外国使節を迎えるための広域整備

博多湾岸の鴻臚館跡(福岡市)は外国使節を受け入れた客館跡で、一般にはここで「饗讌」が行われたと考えられています。ただ、ここに外国使節が逗留したことは間違いありませんが、外交の舞台はやはり大宰府(政庁)だと考える説があります。

これまでの発掘調査では、大宰府の政庁が、都の宮殿のような建物配置をしていたこと、政庁前面には、都(平城京・平安京等)と同じく中央大路(朱雀大路)や街区(条坊)が設けられたことが判ってきました。さらには鴻臚館(筑紫館)から大宰府に向かう道路(官道)も見つかると判りました。こうしたルート整備は、難波鴻臚館(大阪湾岸)と都の間でも行われています。

つまり、都と同じように広域に道路網が整備され、都のような街区が設けられたことから、その中心の大宰府政庁が、外交・饗讌の舞台と考えられます。

さて、都(平城京・平安京)の場合、外国使節は街区(条坊)の中央部に設けられた客館・鴻臚館に安置(宿泊)され、ここから宮殿に上り儀礼・饗讌を受けたことが知られています。

こうしてみると西鉄操車場跡はまさに条坊内の客館・鴻臚館の位置にあります。これを念頭におくと、この場所で特殊な遺構・希少な遺物が見つかる理由も自ずと理解できます。

よって、この場所は外国使節を安置・供給した客館跡と考えられます。このことは大宰府外交の舞台が大宰府政庁ということを示すとともに、大宰府の都市整備が、古代の都城制(東アジア文化圏における、中国の都城の影響を受けた都市設計)に通じていたことを示す上でも、画期的な発見といえます。

(3) 西鉄操車場跡地の遺跡・出土品

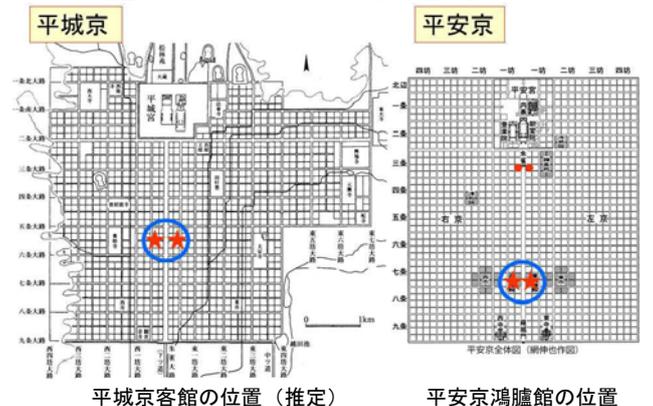
ここでは、大宰府政庁域の建物に似た大型でしかも格式の高い構造をもつ建物2棟が見つかりました。それぞれ約29.5×8.8m(100×30尺)、23.8×8.8m(80×30尺)の広い床面積をもち、大人数を収容可能です。都でも条坊域ではほとんど例のない規模の建物です。



大宰府条坊と西鉄操車場跡の位置(矢印は鴻臚館からの道)



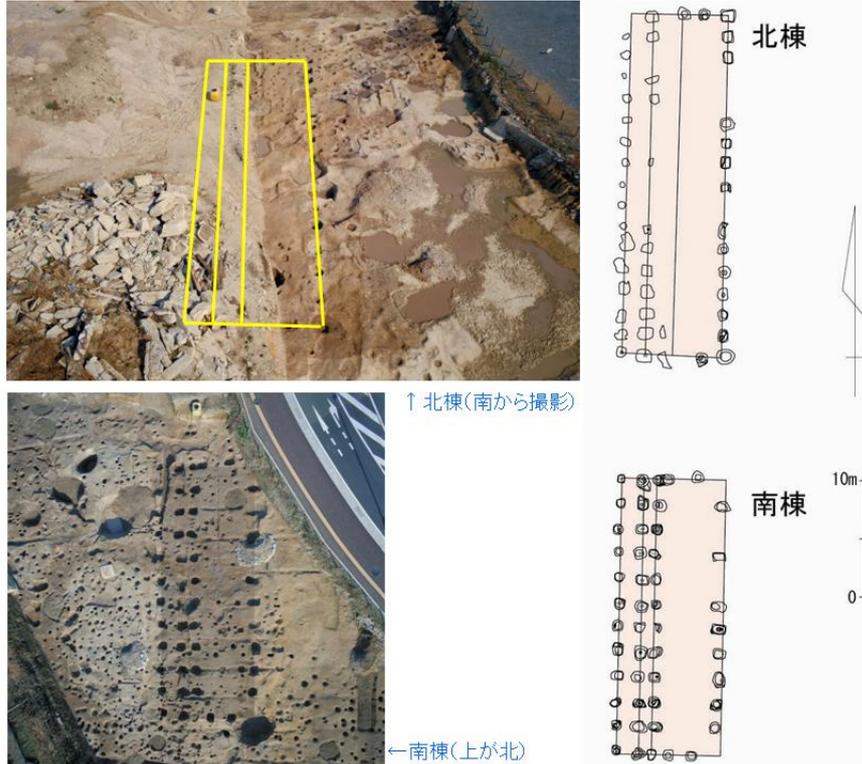
(引用:『史跡鴻臚館跡』福岡市教委)
鴻臚館(筑紫館)から伸びる官道(水城西門ルート)



平城京客館の位置(推定)

平安京鴻臚館の位置

大型建物



さらには、この一帯から、佐波理（青銅食器）、漆器、奈良三彩など、東大寺正倉院宝物にみられるような高級食器類が複数まとまって出土していることが明らかとなりました。

佐波理は、碗・皿・匙など数種類あり、食膳セットがそろっていたことがわかります。中には正倉院に収められた宝物と全く同じタイプと判ったものもあります。

これらの製品が主に出土した大型建物の北～北西では、建物や井戸が集中していました。おそらくこの一画は、給食・給仕などを行うための施設が集まっていたと考えられます。ここからは、他にも木簡（文字を書いた板）なども見つかっています。

高級食器



佐波理に盛り付けた食事



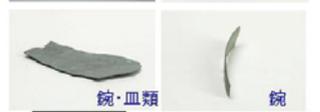
漆器に盛り付けた食事
(写真提供：(独)奈良文化財研究所)

佐波理(新羅の高級青銅製品)



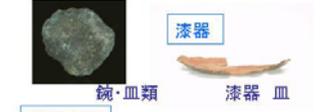
匙

碗(加蓋?)



碗・皿類

碗



漆器

碗・皿類

漆器 皿



新羅土器

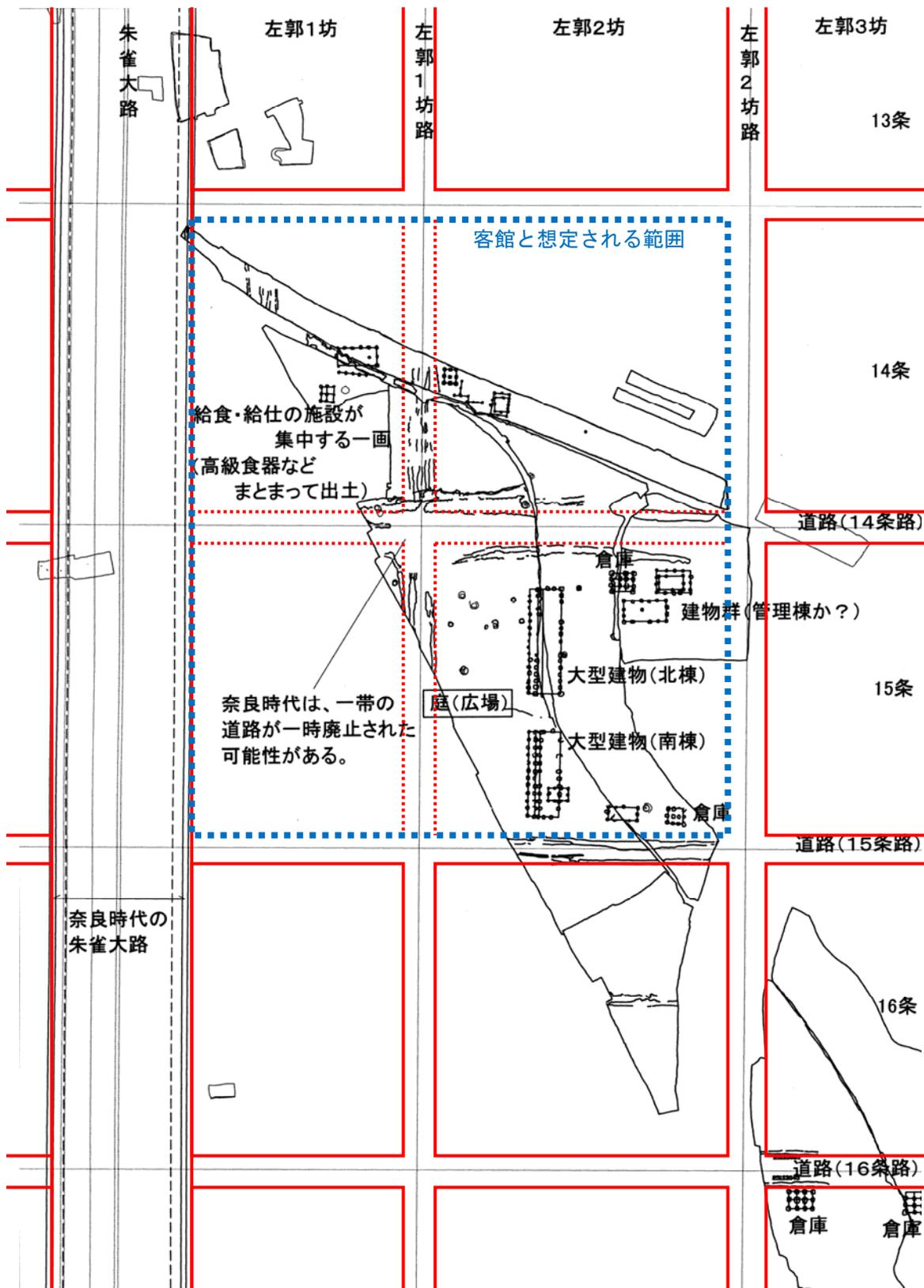
蓋

壺

↑ 操車場跡の出土品

格式高い公的な施設の検出、高級食器から想定される施設利用者の階層、都における客館（鴻臚館）位置との比較から総合すると、ここが外国使節の安置（宿泊）・供給（給食）のための客館の可能性は極めて高いといえます。

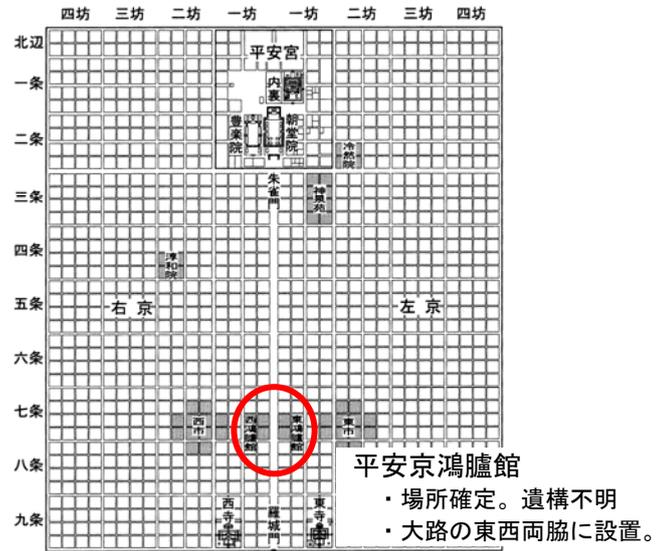
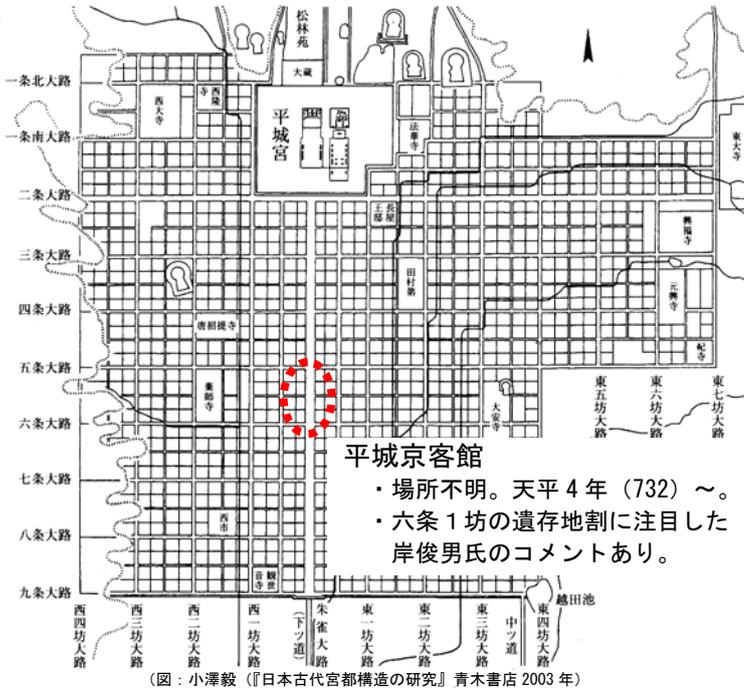
なお、都城内に設けられた客館の発掘調査事例は、東アジアでもほとんど知られていません。学術的にたいへん貴重で重要な遺跡です。



●中央南北大路（朱雀大路）沿いの施設 との比較（※縮尺は任意）

【平城京（710-784、奈良県）】

【平安京（794~、京都府）】

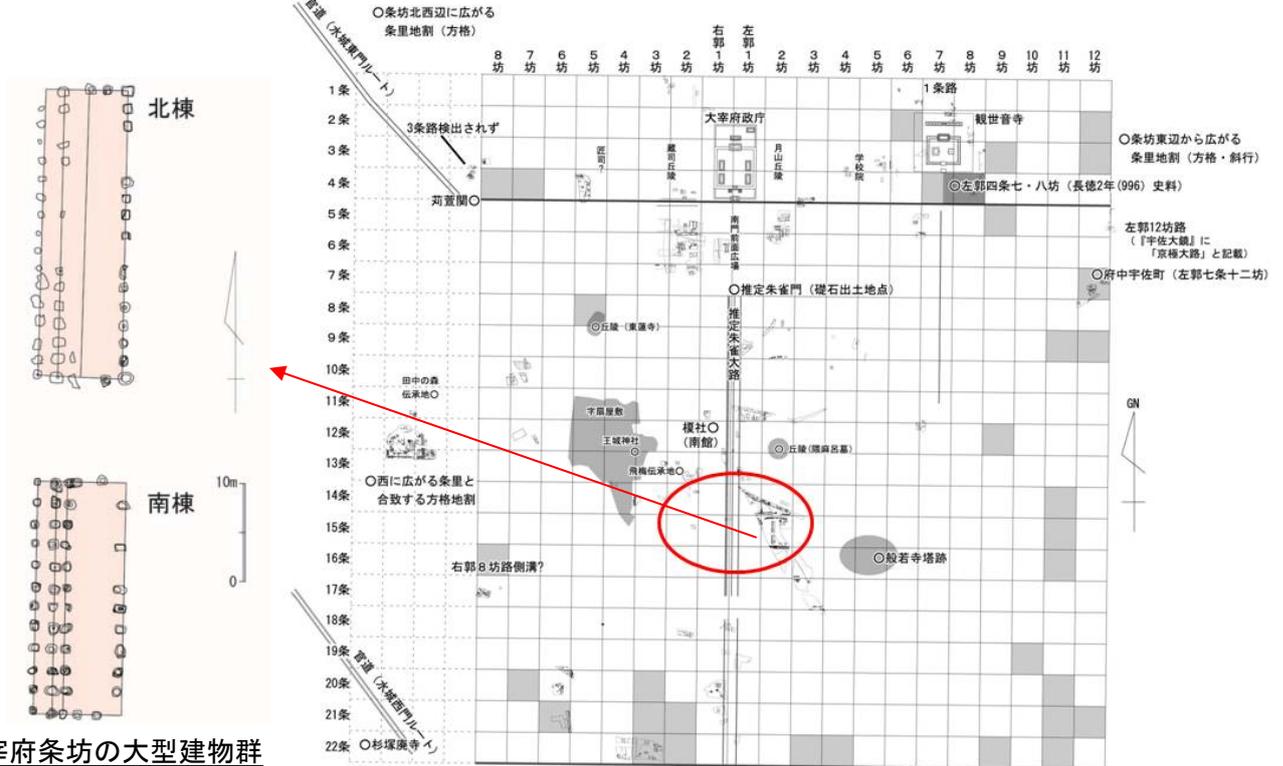


【大宰府（福岡県）】

【多賀城（宮城県）】



●大型建物群の位置と大きさの比較（大宰府（上）・多賀城（下））（※建物縮尺はほぼ同じ）

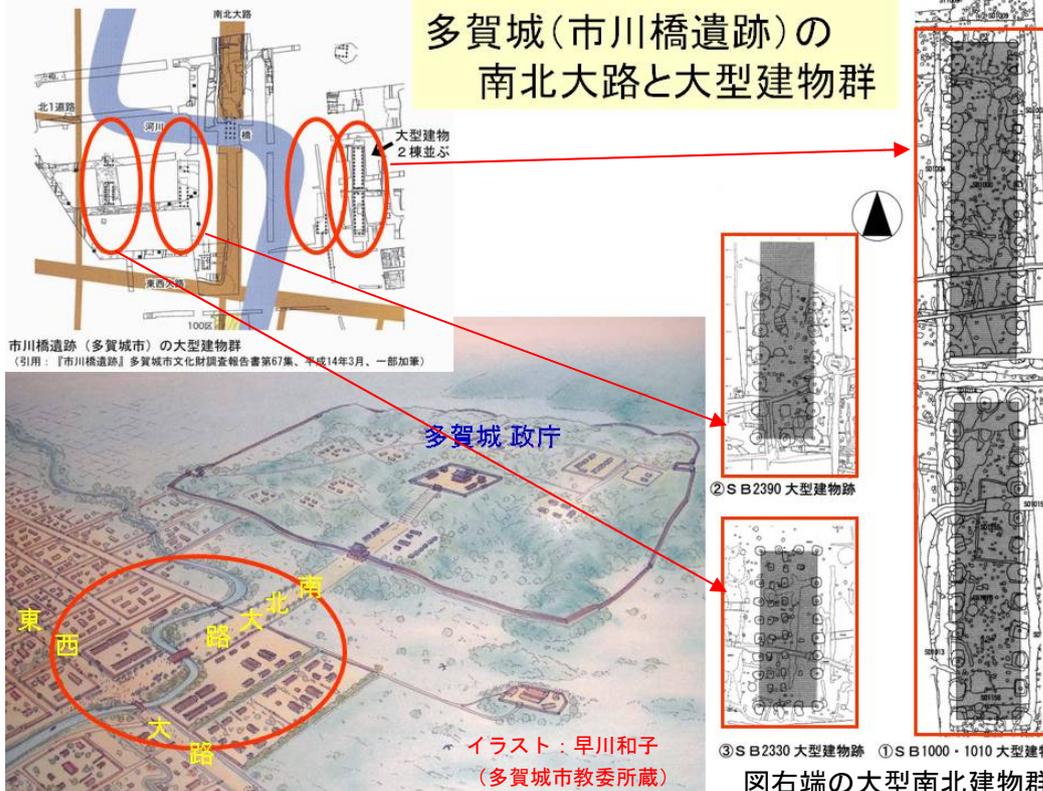


大宰府条坊の大型建物群

- ・身舎（もや）：北棟 16×3 間、南棟 11×3 間
- ・庇（ひさし）：いずれも、西側に 2 間
- ・全体規模：北棟 29.5×8.8m（約 260 m²）、南棟 23.8×8.8m（約 210 m²）

大宰府条坊跡の区画遺構
図化できていないものは調査位置のみ記載

多賀城(市川橋遺跡)の
南北大路と大型建物群



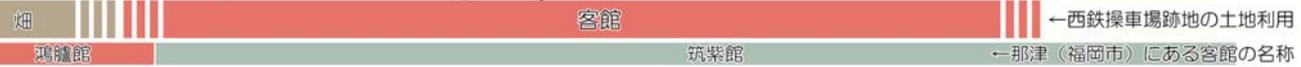
図右端の大型南北建物群（2棟）

- ・身舎（もや）：いずれも 11×2 間
- ・庇（ひさし）：なし
- ・全体規模：いずれも約 33×7m（約 230 m²）

唐 (618-907)	中国	
渤海 (698-926)	中国東北部	
統一新羅 (676-935)	朝鮮半島	
平安時代	飛鳥時代	
奈良時代	日本	
延喜元(801) 〇菅原道真、大宰府に左遷。 『延喜式』	大宝元(701) 〇大宝律令制定 和銅3(710) 〇平城京に遷都する。 養老2(718) 大宰府管内諸国の庸を元に戻す(※この頃、大宰府政庁が完成) 天平2(720) 大宰帥大伴旅人毛で、梅花の宴。(万葉集) 天平4(732) ▼新羅使を、大宰府に召す。(→入京) 天平4(732) ●始めて「造客館司」を置く。(※大宰府客館もこの頃から造営開始) 天平6(734) ▼大宰府、新羅使の来泊を伝える。(→入京) 天平8(736) ▼遣新羅使が筑紫館に至る。(万葉集) 天平10(738) ▼大宰府に使いを送り、新羅使を饗応する。 天平14(742) ▼大宰府(筑前国か)に右大弁を送り、新羅使を饗応する。 天平15(743) 筑前国司、新羅使来朝を伝える。常礼を失しており放却する。 天平4(732) 〇東大寺大仏開眼 天平5(733) ▼大宰府、新羅王子の来朝を伝える。(→入京) 天平6(734) 鑑真、唐より大宰府に至る。 天平7(735) ▼大宰府に参議藤原真光を派遣。唐人沈惟岳を饗応し、禄を賜う。 天平8(736) ▼大宰府に唐人沈惟岳ら着く。先例により、安置・供給する。 天平9(737) ▼新羅使来朝。左少弁を派遣して新羅使を尋問。 天平10(738) ▼大宰博多津に新羅使到着。右少弁を派遣して来朝理由を問う。 天平11(739) ▼大宰府に命じ新羅使を安置・饗応する。 天平12(740) ▼大宰府に、新羅使至る。河内守紀広純を派遣して来朝理由を問う。 天平13(741) 唐使、入京する。 天平14(742) ▼大宰府、新羅使の来朝理由を問ひ、国書の案を書し京進。(→唐客と入京) 天平15(743) 〇長岡京に遷都する。 天平16(744) 〇平安京に遷都する。 天平17(745) 最澄、龍門山寺(玉満山)で渡唐を祈り、薬師仏4体を彫る。 天平18(746) 空海、唐から帰国し観世音寺にとまる。 天平19(747) ▼大宰府に命じ、遣唐使を再発時まで「府館」に安置する。 天平20(748) 遣唐使、平安京の鴻臚館より大宰府に向けて出発する。 天平21(749) ●平安京東鴻臚館の地二町を典葉寮御葉園とする。(※東鴻臚館の廃止) 天平22(750) ▼遣唐録事の大伴旅人毛が帰国。大宰府に命じ「客館」に安置する。 天平23(751) ▼大宰府の要請に対し、新羅商人との交易は許すが鴻臚館に安置・給食は認めず。(※大宰府鴻臚館の初見記事) 天平24(752) ▼円仁、唐から帰国し鴻臚館前に到る。 天平25(753) 承和5年(808)春頃、大宰鴻臚館に唐人沈道古が滞在と記す。 承和6(839) 〇菅原道真、大宰府に左遷。 承和7(837) 承和8(838) 承和9(839) 承和10(840) 承和11(841) 承和12(842) 承和13(843) 承和14(844) 承和15(845) 承和16(846) 承和17(847) 承和18(848) 承和19(849) 承和20(850) 承和21(851) 承和22(852) 承和23(853) 承和24(854) 承和25(855) 承和26(856) 承和27(857) 承和28(858) 承和29(859) 承和30(860) 承和31(861) 承和32(862) 承和33(863) 承和34(864) 承和35(865) 承和36(866) 承和37(867) 承和38(868) 承和39(869) 承和40(870) 承和41(871) 承和42(872) 承和43(873) 承和44(874) 承和45(875) 承和46(876) 承和47(877) 承和48(878) 承和49(879) 承和50(880) 承和51(881) 承和52(882) 承和53(883) 承和54(884) 承和55(885) 承和56(886) 承和57(887) 承和58(888) 承和59(889) 承和60(890) 承和61(891) 承和62(892) 承和63(893) 承和64(894) 承和65(895) 承和66(896) 承和67(897) 承和68(898) 承和69(899) 承和70(900) 承和71(901) 承和72(902) 承和73(903) 承和74(904) 承和75(905) 承和76(906) 承和77(907) 承和78(908) 承和79(909) 承和80(910) 承和81(911) 承和82(912) 承和83(913) 承和84(914) 承和85(915) 承和86(916) 承和87(917) 承和88(918) 承和89(919) 承和90(920) 承和91(921) 承和92(922) 承和93(923) 承和94(924) 承和95(925) 承和96(926) 承和97(927) 承和98(928) 承和99(929) 承和100(930) 承和101(931) 承和102(932) 承和103(933) 承和104(934) 承和105(935) 承和106(936) 承和107(937) 承和108(938) 承和109(939) 承和110(940) 承和111(941) 承和112(942) 承和113(943) 承和114(944) 承和115(945) 承和116(946) 承和117(947) 承和118(948) 承和119(949) 承和120(950) 承和121(951) 承和122(952) 承和123(953) 承和124(954) 承和125(955) 承和126(956) 承和127(957) 承和128(958) 承和129(959) 承和130(960) 承和131(961) 承和132(962) 承和133(963) 承和134(964) 承和135(965) 承和136(966) 承和137(967) 承和138(968) 承和139(969) 承和140(970) 承和141(971) 承和142(972) 承和143(973) 承和144(974) 承和145(975) 承和146(976) 承和147(977) 承和148(978) 承和149(979) 承和150(980) 承和151(981) 承和152(982) 承和153(983) 承和154(984) 承和155(985) 承和156(986) 承和157(987) 承和158(988) 承和159(989) 承和160(990) 承和161(991) 承和162(992) 承和163(993) 承和164(994) 承和165(995) 承和166(996) 承和167(997) 承和168(998) 承和169(999) 承和170(1000)	大宝元(701) 〇大宝律令制定 和銅3(710) 〇平城京に遷都する。 養老2(718) 大宰府管内諸国の庸を元に戻す(※この頃、大宰府政庁が完成) 天平2(720) 大宰帥大伴旅人毛で、梅花の宴。(万葉集) 天平4(732) ▼新羅使を、大宰府に召す。(→入京) 天平4(732) ●始めて「造客館司」を置く。(※大宰府客館もこの頃から造営開始) 天平6(734) ▼大宰府、新羅使の来泊を伝える。(→入京) 天平8(736) ▼遣新羅使が筑紫館に至る。(万葉集) 天平10(738) ▼大宰府に使いを送り、新羅使を饗応する。 天平14(742) ▼大宰府(筑前国か)に右大弁を送り、新羅使を饗応する。 天平15(743) 筑前国司、新羅使来朝を伝える。常礼を失しており放却する。 天平4(732) 〇東大寺大仏開眼 天平5(733) ▼大宰府、新羅王子の来朝を伝える。(→入京) 天平6(734) 鑑真、唐より大宰府に至る。 天平7(735) ▼大宰府に参議藤原真光を派遣。唐人沈惟岳を饗応し、禄を賜う。 天平8(736) ▼大宰府に唐人沈惟岳ら着く。先例により、安置・供給する。 天平9(737) ▼新羅使来朝。左少弁を派遣して新羅使を尋問。 天平10(738) ▼大宰博多津に新羅使到着。右少弁を派遣して来朝理由を問う。 天平11(739) ▼大宰府に命じ新羅使を安置・饗応する。 天平12(740) ▼大宰府に、新羅使至る。河内守紀広純を派遣して来朝理由を問う。 天平13(741) 唐使、入京する。 天平14(742) ▼大宰府、新羅使の来朝理由を問ひ、国書の案を書し京進。(→唐客と入京) 天平15(743) 〇長岡京に遷都する。 天平16(744) 〇平安京に遷都する。 天平17(745) 最澄、龍門山寺(玉満山)で渡唐を祈り、薬師仏4体を彫る。 天平18(746) 空海、唐から帰国し観世音寺にとまる。 天平19(747) ▼大宰府に命じ、遣唐使を再発時まで「府館」に安置する。 天平20(748) 遣唐使、平安京の鴻臚館より大宰府に向けて出発する。 天平21(749) ●平安京東鴻臚館の地二町を典葉寮御葉園とする。(※東鴻臚館の廃止) 天平22(750) ▼遣唐録事の大伴旅人毛が帰国。大宰府に命じ「客館」に安置する。 天平23(751) ▼大宰府の要請に対し、新羅商人との交易は許すが鴻臚館に安置・給食は認めず。(※大宰府鴻臚館の初見記事) 天平24(752) ▼円仁、唐から帰国し鴻臚館前に到る。 天平25(753) 承和5年(808)春頃、大宰鴻臚館に唐人沈道古が滞在と記す。 承和6(839) 〇菅原道真、大宰府に左遷。 承和7(837) 承和8(838) 承和9(839) 承和10(840) 承和11(841) 承和12(842) 承和13(843) 承和14(844) 承和15(845) 承和16(846) 承和17(847) 承和18(848) 承和19(849) 承和20(850) 承和21(851) 承和22(852) 承和23(853) 承和24(854) 承和25(855) 承和26(856) 承和27(857) 承和28(858) 承和29(859) 承和30(860) 承和31(861) 承和32(862) 承和33(863) 承和34(864) 承和35(865) 承和36(866) 承和37(867) 承和38(868) 承和39(869) 承和40(870) 承和41(871) 承和42(872) 承和43(873) 承和44(874) 承和45(875) 承和46(876) 承和47(877) 承和48(878) 承和49(879) 承和50(880) 承和51(881) 承和52(882) 承和53(883) 承和54(884) 承和55(885) 承和56(886) 承和57(887) 承和58(888) 承和59(889) 承和60(890) 承和61(891) 承和62(892) 承和63(893) 承和64(894) 承和65(895) 承和66(896) 承和67(897) 承和68(898) 承和69(899) 承和70(900) 承和71(901) 承和72(902) 承和73(903) 承和74(904) 承和75(905) 承和76(906) 承和77(907) 承和78(908) 承和79(909) 承和80(910) 承和81(911) 承和82(912) 承和83(913) 承和84(914) 承和85(915) 承和86(916) 承和87(917) 承和88(918) 承和89(919) 承和90(920) 承和91(921) 承和92(922) 承和93(923) 承和94(924) 承和95(925) 承和96(926) 承和97(927) 承和98(928) 承和99(929) 承和100(930) 承和101(931) 承和102(932) 承和103(933) 承和104(934) 承和105(935) 承和106(936) 承和107(937) 承和108(938) 承和109(939) 承和110(940) 承和111(941) 承和112(942) 承和113(943) 承和114(944) 承和115(945) 承和116(946) 承和117(947) 承和118(948) 承和119(949) 承和120(950) 承和121(951) 承和122(952) 承和123(953) 承和124(954) 承和125(955) 承和126(956) 承和127(957) 承和128(958) 承和129(959) 承和130(960) 承和131(961) 承和132(962) 承和133(963) 承和134(964) 承和135(965) 承和136(966) 承和137(967) 承和138(968) 承和139(969) 承和140(970) 承和141(971) 承和142(972) 承和143(973) 承和144(974) 承和145(975) 承和146(976) 承和147(977) 承和148(978) 承和149(979) 承和150(980) 承和151(981) 承和152(982) 承和153(983) 承和154(984) 承和155(985) 承和156(986) 承和157(987) 承和158(988) 承和159(989) 承和160(990) 承和161(991) 承和162(992) 承和163(993) 承和164(994) 承和165(995) 承和166(996) 承和167(997) 承和168(998) 承和169(999) 承和170(1000)

大宰府の外交・客館 年表

▼印 外国使節の大宰府来訪
また、その可能性のある記事
▽印 那津の筑紫館・鴻臚館の記事



(4) 見つかった遺跡と、国内の客館（鴻臚館）の動向

この大型建物が建築されたのは8世紀第2四半期頃、確認された高級食器群の年代観は8世紀～9世紀前半、この一帯が畑になってしまうのが9世紀中～後半です。このため、ここが「大宰府客館」として機能したのは8世紀第2四半期～9世紀前半と考えられます。

- これと、国内の客館の動向を比較してみると、その推移と関連がうかがえます。
- ① その始まり、8世紀第2四半期には、客館を造るための役所「造客館司」が天平4年(732)に設置されています。おそらく、ここ大宰府客館の設置にも関わったと想像されます。
 - ② その後、奈良時代には新羅使・唐使(唐客)の大宰府来訪が度々あり、ここの利用が想定されます。なお平安時代はじめの830年代には、遣唐使が平安京の鴻臚館や大宰府の「府館」「客館」を利用した記事があります。こうした館を遣唐使も利用したことがわかる記事ですが、この「府館」「客館」は、まさにこの施設を指している可能性があります。
 - ③ 平安京の東鴻臚館は承和6年(839)に廃止されます。これは、新羅使が8世紀以降来朝しなくなり渤海使のみとなったため、東西に置かれた鴻臚館の一方を廃止したものです。大宰府でもこの場所は、直後の9世紀中～後半には畑の畝溝とみられる溝が広がり、以前の土地利用から変わったことが明らかとなっています。朱雀大路東側に置かれたこの客館の廃止も、都の動向に沿ったものとも考えられます。なお9世紀中頃から、博多湾岸に置かれた「筑紫館」は「鴻臚館」と呼ばれるようになり、盛んに外国商人と交易(貿易)が行われました。対外関係の主体は、沿岸部での鴻臚館貿易に移ったと考えられます。

このように見ていくと、大宰府条坊内の客館は、都におかれた客館・鴻臚館と期を一にしていることがうかがえます。古代日本・東アジアの外交を知る上で、重要な遺跡です。